

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名 沖縄県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	名護市立久辺中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	2	1	5	11
生徒数	40	35	42	1	118	

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力の定着を目指した指導の工夫・改善」  
～数学科における少人数指導を通して～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・数学  
生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるとともに、生徒の実態から、  
落ち込みが大きい教科であるため

(2) 年次ごとの計画

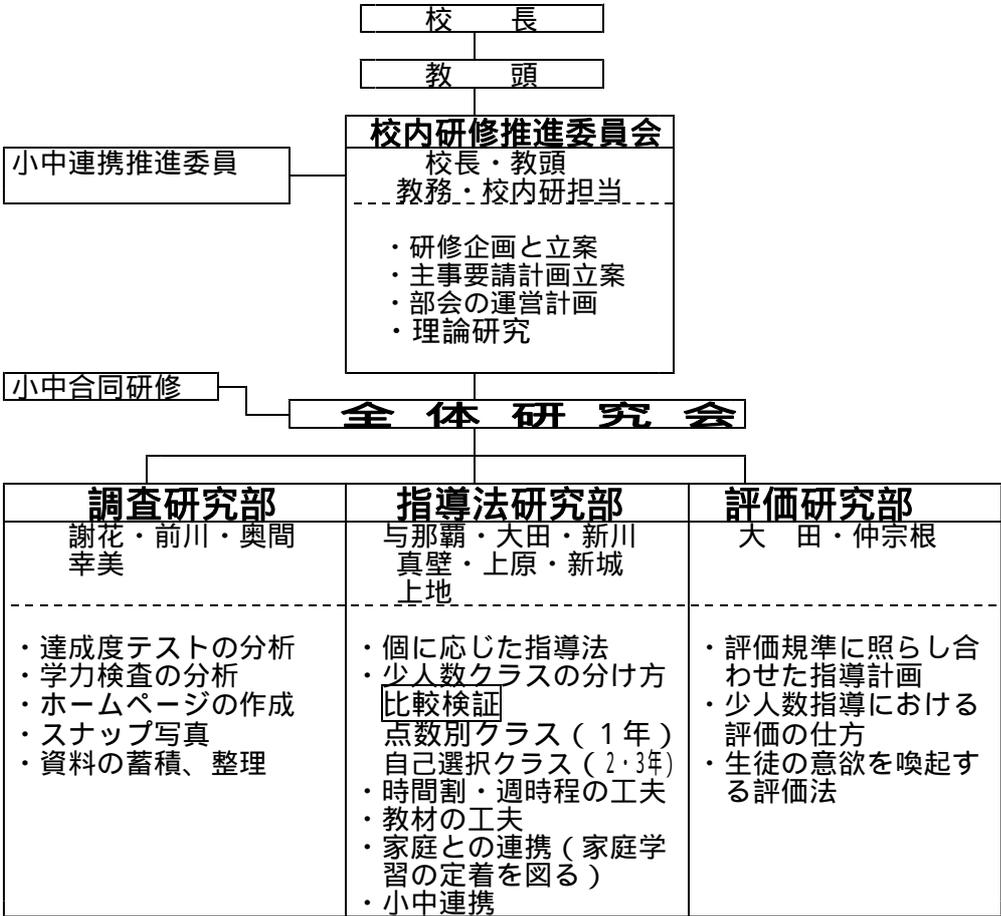
平成 14 年度	<p>テーマ 生徒のやる気と自信を引き出す評価方法の研究 ～「魅力あふれる学校づくりを目指して～ 研究の見通し(仮説) 新教育課程の下, 創意工夫ある学習活動の展開とともに, 教師自らが個 を見つめた評価活動を行うことにより, 「明日が待ち遠しくなる」ような 魅力ある学校にすることができるであろう。 研究の内容・方法 各教科における「目標に準拠した評価」についての研究 特に系統性が重視される数学や英語における「習熟度別授業」の展開 選択教科における授業の充実を中心とした, 基礎学力の定着(基礎的 ・基本的事項の定着, コミュニケーション能力, コンピュータ操作・活 用能力)を目指した個別指導の工夫 道徳, 特別活動, 総合的な学習の時間における評価方法の確立 漢字力・計算力検定に関すること 個に応じたきめ細かな指導についての研究 (補充・発展的な学習の工夫及び家庭学習時の課題提示に関する研究) 小・中連携に関する研究 研究内容及び方法の概要を記述すること。</p>
----------------	--

平成 15 年度	<p>テーマ 「確かな学力の定着を目指した指導の工夫・改善」 ～数学科における少人数指導を通して～ 研究の見通し 個々の生徒の習熟度を適切に把握し、意欲的に取り組める課題や学習過 程・学習環境を設定し、より効果的な指導法を工夫すれば「確かな学力」 が身につくであろう 研究の内容・方法 (1) 少人数指導における指導体制・指導方法の工夫、改善 (2) 生徒の意欲を喚起する評価の仕方 (3) 家庭学習における課題提起の工夫 (4) 小中連携、家庭との連携 (5) 学力標準検査等の分析及び活用</p>
----------------	--

\* 昨年度中間報告（テーマ）の変更に伴い、「仮説」「内容・方法」を変更した。研究教科を数学一本に絞り、全職員体制で取り組むこととした。

平成16年度  
 テーマ（予定）  
 「確かな学力の定着を目指した指導の工夫・改善」  
 ～数学科における少人数指導を通して～  
 研究の見通し  
 個々の生徒の習熟度を適切に把握し、意欲的に取り組める課題や学習過程・学習環境を設定し、より効果的な指導法を工夫すれば「確かな学力」が身につくであろう  
 研究の内容・方法  
 (1) 少人数指導における指導体制・指導方法の工夫、改善  
 (2) 生徒の意欲を喚起する評価の仕方  
 (3) 小中連携、家庭との連携  
 (4) 学力標準検査等の分析及び活用

(3) 研究推進体制



\* 昨年度の「授業実践部会」「調査統計部会」「検定部会」「情報発信部会」を上記3つの部会に変更した。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・ 数学においてはきめ細かい指導・校内検定の実施により、生徒の計算力・基礎的な力のレベルアップが図られている。
- ・ 数学劇を実施したことにより、生徒の主体性が伸長され、積極的にものごとに取り組む雰囲気が出て来た。
- ・ 9月になってから始めた家庭学習への取り組みは、家庭学習の習慣化と内容の充実を生みつつある。
- ・ 小中連携の幅が広がった。
- ・ フロント事業へ全職員体制で取り組み、数学の研究授業を始め、校内検定、家庭学習の習慣化等を通して、職員の学力向上への意識が高まったとともに、生徒の学習に対する意識の高まりも感じられる。

\* 資料

選択数学において、少人数指導に当たる前のチェックテストと指導後類似テストの各学年の平均点が向上した。

学 年		指導前	指導後
1	男	57.0	68.9
	女	68.2	78.8
2	男	53.6	65.3
	女	45.1	59.9
3	男	48.9	72.8
	女	48.6	69.1

2. 今後の課題

- ・ 少人数指導時の教材開発（発展的・補足的）と指導法の工夫
- ・ 個に応じた指導法の継続的研究。
- ・ 家庭学習が定着していない生徒への手だて。
- ・ 「生徒の意欲を喚起する評価」についての取り組み。
- ・ 習熟度別指導時の評価の在り方
- ・ 小中連携のもう一步踏み込んだ具体策

学力把握のための学校としての取組

- (1) 「校内検定・百マス計算自己評価表」による意識調査
- 目的** 検定・百マス計算実施による、生徒の意欲、意識の変容を捉えるため
- 実施内容** 5項目の自己評価（A・B・C）と感想の記入。  
例「1. 週一回の校内検定に真剣に取り組めた・・・A・B・C」
- 実施期日** 毎学期・検定最終日
- (2) 「学習に関するアンケート」の実施と分析
- 目的** 各教科（9教科）の学習に対する生徒の意識の把握  
フロント事業を進めるにあたっての数学に関する実態の把握
- 実施内容** 7項目の学習に関する問いに対し、選択肢（9教科）から3つまでを選ぶ。  
例「5. 生活で役立つと思う教科はどれですか。」
- 実施期日** 平成15年6月27日（金）朝の会

フロントスクールとしての研究成果の普及

- (1) 国頭地区中学校教務主任研修会にて事例発表  
日時・・・平成15年10月22日  
場所・・・名護中央公民館  
対象・・・国頭地区教務主任・教職15・20年経験者
- (2) 校区学力向上対策実践発表会での発表  
日時・・・平成15年12月16日（火）  
場所・・・久辺小学校体育館  
対象・・・保護者、地域等
- (3) ホームページの公開  
現在、公開に備えてHP作成中。
- (4) 近日中にリーフレット作成予定

- 
- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                  7～9学級                       10～12学級  
                                  13～15学級                    16学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       数学                       理科  
                                  外国語                       音楽                       美術                       技術・家庭  
                                  保健体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無